

営農技術情報

発行 令和2年6月19日

第8号

たいせつ農業協同組合

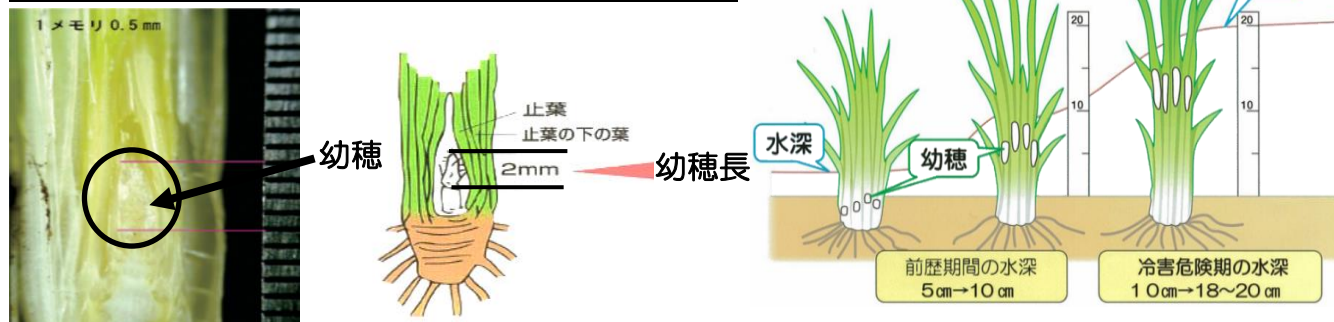
営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

本年の水稲の生育状況は平年と比較すると、作柄は平年並みとなっております。(品種：ななつぼし、6月15日現在、普及センター) 6月下旬から幼穂形成期(平年6月27日)に入ることが予想されますが、非常に不安定な天候が続いておりますので最新の気象情報と幼穂形成期の確認を実施し、状況に合わせた適切な管理を行いましょ

○幼穂形成期の確認・水管理について



平均的な株の主茎を3~5本取り、カッターナイフ等で縦に切断して幼穂長を確認し、上図のように2mmに達していれば幼穂形成期です。

※手の怪我に注意！！

	6月		7月	
	下旬	中旬	中旬	下旬
生育期節		幼穂形成期	前歴期間	冷害危険期
		幼穂形成期から10日間		冷害危険期後7日程度
管理	中干 溝切	深水管理		

○前歴期間の水管理

幼穂形成期(幼穂長が2mmに達した日)から10日間は水深を5cmから徐々に10cmまでの深水としましょう。水温を25℃以上に保つことで花粉が増加し稔実歩合と、耐冷性が向上します。水温の維持のためには、用水量が豊富な場所での急激な入水や用水量の足りない場所でも毎日入れ続けることはせずに、ほ場を冷やさない様にしましょう。

○いもち病対策について

育苗時に殺菌剤を処理していない場合や昨年いもち病が発生したほ場などには、水面施用剤を使用していもち病対策を実施しましょう。

薬剤名	使用量	防除時期	備考
オリゼメート 1キロ粒剤	1kg/10a	幼穂形成期1週間前から	水深5cm程度を 4~5日間保ち、落水 かけ流しはしない
コラトップ ジャンボP	50g×10袋/10a		

- ・農作業事故に十分注意しましょう。
- ・農薬散布の際には風の有無を確認し、ドリフト発生を確実に防ぎましょう。

